



# 点描

今年の干支は「辛丑（かのと・うし）」。「日本では干支という干支が一般的だが、本来は10種類の十干（じっかん）と12種類の十二支を組み合わせた計60種類の干支があるという。

干支は古代中国の陰陽五行思想の影響が強い。「かのと」の辛は、刺青をする針を表した象形文字に由来し、針で刺すことから身体の苦痛を表すとされ、ツライ、カライといった読みになる。

丑という字は、力を込めて手の指を曲げている様を表した象形文字だとい、転じて植物の芽が種子を破って芽吹く寸前の状態を意味するのだとか。痛みを伴う状況にあっても次には生命の躍動が期待できる状況がやってくる」と読み解ける。今年には閉塞感と同居という状況を脱し、前に踏み出す年にしたい。

「外から見ている頃は冷凍空調設備工事会社、エネルギー消費計測や省エネルギー診断・省エネ改修等も含めた保守・メンテナンス会社というイメージが強かったが、中に入ってみると既製品を需要に応じて当て込むというのほとんど無く、決まった仕事を淡々と進めるといふより、常に前へ、常に新たなものを」という姿勢が強いことが分かった。また（会社の歴史の中では）比較的新しいフ

イルター製品も、売るだけ」の商売なのだろうな、と思っていたが、実際はお客様が抱えていらっしやる課題やお悩みの解決のために、原因から考え、それを解決する製品を開発し、きめ細やかに提案・フォローアップしていくという事業なのだなど気が付かされた」

ユニパック（社長 松江昭彦氏、本社・埼玉県川口市西川口2-1-7）の松江一騎氏（同社東京支社社長）はこう話す。

大学卒業後、大手総合設備会社に入社し、BtoBの営業を中心に約11年間の勤務を経て、昨年父の経営するユニパックに入社した。大手総合設備会社時代は「営業もふくめ、若輩の身にも関わらず色々な仕事も任せていただき、

沢山の経験を積ませて頂いた。先輩、上司の方々ははじめ皆様には本当に感謝している」と松江氏。ユニパックには高校生の頃まではアルバイトの幾度か手伝いには来ていたが、社会人となってからは足が遠のいていたため、本人の中にあるイメージに対し、会社の実

の削減（省人化）洗浄再利用によるリユース・リサイクル（省資源化）、あるいは花粉対策や火山灰対策といった今までにない機能の開発など、顧客目線の製品開発で傑出した存在。こうした取り組みはフィルタ業界の「慣習」とは相容れず、同社が後発参入組であることもあり、冷凍空調業界（設備工事・メンテナンス業界を含む）では、メジャーの一角に収まるまでには至っていないが、省エネ大賞の受賞や、ユーザー業界側がその利点に気付き積極導入に動くなど、一般の社会的評価のほうから先行している。近年では、同分野で最大規模のシェアを持ち、

「抗菌フィルタ開発・エアロゾル感染対策に期待」

像は良い意味で裏切られたというのが冒頭のコメントである。数多い空調フィルタメーカーの中でも、ユニパックはブレ・メイソン一体型洗浄再利用型フィルタシリーズに代表されるように、トップクラスの省エネ性、省CO<sub>2</sub>を有すると共に、メンテナンス業務

『涼風A g+』と天井カセット用の「超親水性持続抗菌フィルタ

社製品の長が、SDGs視点に立ったESG投資を呼び込むツールとしても有効との判断が広がり始めている。

こうしたなか、同社はフィルタ事業で新たな製品としてA H U用の「超親水性持続抗菌フィルタ

同分野の景況判断指標ともなっている業務用パッケージエアコン（店舗用PAC、ビル用マルチエアコン、設備用PACを含む）の室内機として最大の構成比を持つ。その意味でも新型コロナウイルス感染禍に悩む市場へのインパクトは大きい。特別な改造をせず、既存のフィルタ取り付け枠にそのまま装着でき、オーバーホールが不要となる点も魅力だ。

「このうち「恵風A g+」については「昨年10月末から11月上旬にかけてグループホーム等の介護・療養施設の数多く設置（松江氏）する点も早くも実績を積み上げ始めた。また、レンタル事業者も強い関心を示しており、有力レンタル事業者からレンタル、リースについて引き合いを受けている。」

「一方で「涼風A g+」についても地元川口市の鳩ヶ谷庁舎の会議室系統や戸田市役所で導入。昨年未から感染第三波が襲来するなど感染禍の終息は依然として見込みがたっていないが、終息後は再び「省エネ」「省CO<sub>2</sub>」さらには「脱炭素化」といった課題解決が最重要視されるようになると思われる。そうした際の新たな設備投資を避ける意味でも「涼風A g+」や「恵風A g+」をこ採用頂ければ。」

ユニパックでは感染禍が長期化する中で、コロナクラスター施設の再生手法（無人オゾン殺菌システム）の一つとしてリモート式オゾン除菌システム「OZONOUT（オゾナウト）」の実用化に取り組んでいる。オゾンガスは一定濃度で一定時間暴露させると新型コロナウイルスの不活性化に有効であるとの知見（6ppmで55分間暴露、奈良県立医科大学）が得られているが、同濃度での暴露（吸引）が続くと肺気腫や、さらに生命にも危険を招く人体にとって毒性の強い環境でもある。オゾナウトはオゾン発生装置とオゾン回収装置を遠隔コントロールで監視・制御するもので、作業者を人体に有害なオゾン濃度環境に曝すことなく、対象となる室内に残留する新型コロナウイルスを不活化できる点が最大の長。ガラススター発生施設の復旧やオリンピックで来日される方々に安心して施設を使って頂く、新型コロナウイルス対策の手法を広めていきたい」とい



ユニパック

松江 一騎 東京支社長